



高原の自然館ニュースレター

苅尾電波塔

第71号

2009.12.1

高原の自然館

苅尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。
一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめて「かりお」
の名前をつけています。

もくじ

お知らせ

- － イベントの日程決定
- － 「太田川水族館」が出版
- － 冬季閉館について
- － 千町原の草刈りを実施

観察会案内

- － ゴギの観察会
- － 紅葉と冬芽の観察会
- － 八幡高原の野鳥観察会

お知らせ

● イベントの日程決定について

「かんじき作り」の日程が決定しました。

開催日時：2009年12月5日（土）10:00
集合場所：八幡高原センター

● 「太田川水族館」が出版されました。

観察会でおなじみの内藤順一先生が、太田川流域に生息する水生動物の観察記録をまとめた「太田川水族館」を出版されました。大人から子どもまで楽しみながら学べる一冊となっています。お求めは高原の自然館までお問い合わせください。

『写真と文で太田川を覗く 太田川水族館』
内藤順一著 / 1,500円
B5判（カバーつき）
本文 268ページ・カラーグラビア 10ページ

● 冬季閉館について

高原の自然館は11月26日より冬季閉館となります。次回開館は4月25日です。来シーズンもよろしくお願ひします。冬季連絡先は下記の通りです。

北広島町芸北支所
電話番号：0826-35-0114

● 千町原の草刈りを実施しました

千町原の草原景観と生態系を保全するための活動として、11月23日に草刈りを実施しました。今回も、来年4月に予定している「野焼き」の防火帯づくりを中心に作業を行いました。詳しくは次号「苅尾電波塔」でご報告します。

観 察 会 報 告

●ゴギの観察会

開催日時:2009年11月7日(土)9:30

講師:内藤順一

観察会当日はとても暖かく、久しぶりに気温が20℃近くにまでになりました。24名の参加者が八幡高原センターに集合し、観察会が始まりました。今回の講師はサツキマスの観察会に続いて、内藤先生です。

最初にプロジェクターを使って、事前勉強が行われました。ゴギは日本固有亜種のイワナで、生息環境の悪化やイワナやアマゴとの交雑などにより、現在は絶滅危惧種に指定されているそうです。産卵風景が見られないかもしれないということで、先生が苦心されて撮った映像を色々見せていただき、尾ビレで器用に産卵床を作る事や、約一時間かけて行う「舞の行動」など、ゴギの産卵行動についてよくわかりました。現地見学は、ゴギの産卵が今日は見られないかもしれないとのことで自由参加になりましたが、ゴギが居ることを願って、全員で見に行くことになりました。以前産卵を見ることのできた場所をいくつか見て回りましたが、どこの場所にも姿を見つけることができず、今回は見られないかと思っていると、参加者の方が一匹のゴギを発見!その場からあまり動かず泳いでいたので、内藤先生のお話によるとエサを探しているのだろうということでした。産卵の様子を見ることはできませんでしたが、ゴギの姿や餌を探している様子をじっくりと観察することができ、いい観察会となりました。[しんぼゆうすけ]



内藤先生のお話をこたつの中に入って聞く。質問も多く出た。



現地へ移動する前に、内藤先生が出版された本を紹介していただく。



ゴギの生息環境を現地にてお話いただく。「早く見たいなー」と子ども達は待ちきれない様子だった。



実際に川に入り，以前の産卵床を指さす内藤先生。



道沿いをゆっくりと歩きながら観察する。おなじみきたひろネットも取材中。



ゴギを発見！特長である頭上の白い斑点がよく見えた。

【みなさんの印象に残った物】

「ゴギを近くで観察できたこと」「ゴギの産卵を（ビデオ映像で）見られたこと」「ゴギの個体が見られたこと（8）」「産卵は見られなかったが，自然に泳ぐ様子が見れてよかったです。」
「ゴギが泳いでる姿」「ゴギの分類等の話が聞けた事」「秋の山とゴギの産卵場所」「実際にゴギが見れてよかったです」「産卵は見れなかったが，ゴギ2匹みれて感動しました」「ビデオ」

【参加したみなさんの感想（抜粋）】

「素人なのでゴギかどうか見分けられるか不安でしたが見分けられてよかったです」「魚の見分けがわからなかった」「1亜種として狭い範囲にしかないの，保護が必要でしょうか」「産卵が見られなくて残念」「DVDで産卵の様子を解説付きで見せてもらったし，実際の姿も見れたので大満足です。」
「大変丁寧な説明をいただきありがとうございます。」
「写真とビデオを見せていただいたが根気よく撮れていてすばらしかった。」
「ゴギの生態が先生の説明でよく分かりました。それにしても4～5時間待つとは大変ですね」「産卵はみれなかったがDVDとがみれてお話がきけてよかったです」
「講義は，長くても良いです」「楽しかったです」「先生の話はとてもためになりました。ゴギとゴギが住める環境をぜひ守っていきたいです。」
「自然を大切にしたいとつくづく思った」「今年はゴギが少なくなっていると聞いて心配です」「ゴギを見られてうれしかった」「ゴギをもっと大切にしたい」

観 察 会 報 告

●紅葉と冬芽の観察会

開催日時:2009年11月14日(土)9:30

講師:斎藤隆登

前日から雨が降り、気温も雨もあがらないまま観察会の日を迎えました。高原の自然館に11名の参加者が集合し、今回の講師である斎藤先生にお話を聞くことから始まりました。先生自作の資料を見ながら、花や葉がなくても、冬芽で木を見分けることができたり、木によって冬芽の特長が違うことなどを、詳しく教えていただきました。その後、車で掛頭山に移動し、車道沿いの木を観察しました。ミズナラ、リョウブ、ノリウツギなど全部で15種類の樹木を見ながら歩き、冬芽という観点から木の生長の過程や、植物の生き残りのための戦略のお話も聞きました。参加者からも、植物用語についての質問などもあり、冷たい雨の中でしたが、熱気ある時間を過ごすことができました。「この木がどういう情報を持っているかということ想像するのが、冬芽を知る楽しさですよ」という斎藤先生のお話が印象的でした。それぞれの木に冬芽があり、それぞれに越冬の仕方があるということがわかり大変充実した観察会となりました。[こののやよい]



斎藤先生が顕微鏡を使って観察し、作成した資料を見ながらイヌブナとブナの違いの解説をじっくりと聞く。



肉眼で見えない細部はルーペで観察。



斎藤先生が用意してくださったイヌブナとブナの枝。



雨の中でも熱心にお話される斎藤先生。



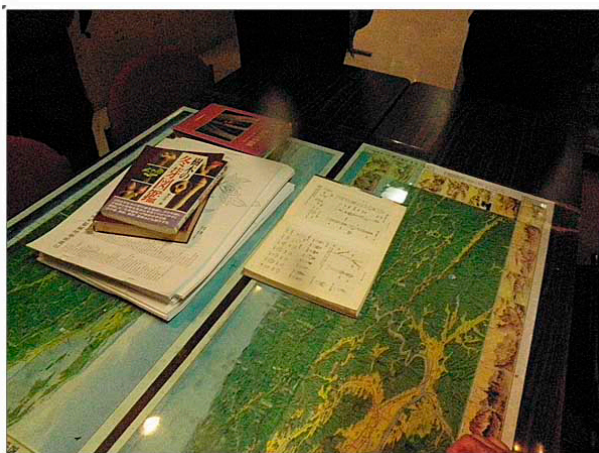
アカマツも、場所によって枝の張り方が違っていると教えていただく。



この日もきたひろネットの取材クルーが参加。



クリの木を見ながら、今年伸びた枝を観察する。



冬芽の図鑑を紹介していただいた。これを見ると植物用語もよくわかる。

【みなさんの印象に残った物】

「冬芽でもそれぞれ枝との関連、役目があるんだと感動しました」「マユミ、カンボクの赤い実」「リョウブの冬芽と枝の伸びぐあいがよくわかりました」「手作りの冬芽の資料」「芽の形に基本型がある事が判った事です」「イヌブナとブナ」「冬芽を見ると、形だけでなく芽がついている枝をパターン化するとよいこと。どの樹木の芽も同じものが一つとしてなく各々ちがっていること」

【参加したみなさんの感想（抜粋）】

「雨の中でも解りやすい説明で良かった」「晩秋の植物を新しい切り口で見ることができ、良かった」「雨が降って沢山の木の観察ができなかったのが残念ですが、わかりやすく説明していただき楽しく学習できました」「天候が悪かったので残念。機会があればまた参加したい」「庭木の剪定にも役立てたい」「枝の出方が変わることがおもしろかった」「冬芽も生きるために工夫していることに感心しました。今まで冬芽はわからないと、かたづけていましたが、とても楽しくこれからよく観察してみたいと思いました。」

観 察 会 報 告

●八幡高原の野鳥観察会

開催日時:2009年11月15日(日)8:00

講師:上野吉雄

冬の雲が空を覆い、気温も低い中での観察になりました。講師を含め、総勢5人という少人数で、自然館前・霧ヶ谷・大歳神社・尾崎谷・三島・滝ノ平・千町原と、テンポ良く回りました。自然館の前では、アトリの群れとツグミの群れを比べながら、ツグミの方がちよつとぶっくりしていること、群をつくることで天敵に襲われた時のリスクを下げられること、などを聞きました。湿原再生が進んでいる霧ヶ谷では、セグロセキレイが3羽、追いかけてこをしており、めずらしく木の枝に止まる姿も見られました。少し歩いていると、コガモが4羽ほど飛び立っていきました。ここではオシドリやアオシギなども確認されており、再生事業の影響がすでに現れているそうです。大歳神社では、目当てのシラガホオジロがいたそうですが、少し遠かったので、「アトリよりすこし大きいかなあ」というくらいしか分かりませんでした。尾崎谷に移動すると、コガモが100羽以上の群れを作っていました。他の鳥は見られませんでした。それでも、堰堤の影から見ていると、近くの水面までやってきて、ゆっくり滑っていく姿を観察できました。羽の鮮やかな緑色も、しっかり見ることができました。三島郷ではカシラダカを間近に見ることができました。双眼鏡で見ると、なかなかきれいな小鳥です。滝ノ平では期待した猛禽類は観察できませんでしたが、千町原に戻ると、ハイタカが扇谷の上あたりを飛んでいました。レンジャクが居ないなど、全体的には鳥が少なかった印象ですが、声を聞いたものも含めて数え上げると、19種類もの鳥を観察していました。アトリやカシラダカなどは、繁殖地のロシアで環境悪化が進んでいるために、数が激減したそうです。逆に、日本の環境が渡り鳥の数に影響することはないのだろうか、と少し考えさせられた観察会でした。これからも環境を整えながら、観察を続けていきたいものです。[しらかわかつのぶ]



高原の自然館前に集合。その後、枝に止まったツグミの群れを観察中。



八幡湿原自然再生事業が進む霧ヶ谷湿原では、セグロセキレイやコガモを確認。



シラガホオジロを観察。社叢林の中に、アトリもやってきた。



図鑑を手に、説明する上野先生.



コガモが近くにやってきた。羽の青色が特徴.



尾崎沼にやってきた.



高原の自然館に戻り、観察した鳥についておさらいをした.



堰堤に隠れてカモを観察中.

【みなさんの印象に残った物】

「冬鳥の多さ」「鳥が少なかった。とくに八幡の田んぼ」

観 察 会 案 内

観察会に参加される時には、次のようなものを持参してください。カメラ、双眼鏡、ルーペ、図鑑などもあれば、楽しいと思います。

基本セット：山を歩ける服装、雨具、飲み物、おやつ、筆記用具、メモ帳

作業セット：作業ができる服装、長靴、軍手、雨合羽、飲み物、おやつ

● かんじき作り

開催日時：2009年12月5日(土) 10:00

集合場所：八幡高原センター

講師：坂井健作

準備：工作ができる服装

定員数：30名

参加費：一般 = 300円

賛助会員 = 100円

正会員・中学生以下 = 無料

材料費：かんじき 1,500円 / 1個 (予定)

● 冬を生きる動物たちの生態

開催日時：2010年1月16日(土) 10:00

集合場所：高原の自然館

講師：上野吉雄

準備：基本セット、かんじき(レンタル有 / 200円)、スノーシュー

定員数：30名

参加費：一般 = 300円

賛助会員 = 100円

正会員・中学生以下 = 無料

今年は自作のかんじきで雪上歩きをしませんか？輪にロープを巻きつけるだけで、“マイかんじき”のできあがりです。巻き方は少々難しいですが、先生がじっくり教えてくださいます。これさえあれば、雪が降るのも楽しみな冬になりそうです。

冬を生きる動物たちは、雪の上で様々なサインを見せてくれます。足跡、フン、食痕など、先生の説明をきくとサインの意味がよりわかり、動物たちを身近に感じることができるでしょう。雪上を歩けるアイテムと服装でお越し下さい。

● 2009年度のイベント計画について

2009年度のイベントも残りわずかとなりました。冬ならではの観察会もお楽しみ下さい。なお、日程は変更になる場合がありますので、毎回の苅尾電波塔にご注意ください。

2月 21日 雪原のトレッキング

3月 6日 早春のトレッキング



11月3日に八幡では初雪が降り、10センチほどの積雪がありました。早速写真を撮りに行くと、カメラを持った方がたくさん千町原を歩いていました。まだ紅葉が残る中での雪景色はとてきれいで、八幡の豊かさを感じた瞬間でもありました。そんな中、痛ましい事件が起こり、本当に言葉もありません。一刻も早い事件の解決を願い、被害者の方のご冥福を祈ります。(こうの)

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先
(ご意見・ご感想もお待ちしています)

高原の自然館(こうげんのしぜんかん)

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原 119-1

tel. & fax : 0826-36-2008

<http://shizenkan.info/>

staff@shizenkan.info